

< 特別寄稿 >

正山征洋先生のご厚意で所蔵されている「ボタニカルアート」の一部を紹介させていただく事になりました。大変貴重で興味深く、芸術性も高い作品に加え先生自ら解説されています。

ボタニカルアート

九州大学名誉教授・長崎国際大学名誉教授

正山征洋先生



第90回

ソレノステマ・アルゲル



Solenostemma Argel. Capia lenitiva

学名が *Solenostemma argel* と記されており、ラテン語から花の形がくだ状で上に冠がついている形状を表しています。果実の形状から伺えるようにガガイモ科に属する多年草で、北アフリカやアラビア半島の砂漠に自生する植物で、古くから民間薬として用いられてきました。

茎や葉を煎じて、胃痛や腹部の痙攣に、また下剤にもなります。抗炎症作用があるのでリュウマチ、関節炎、神経痛等に用いられ、さらに風邪の咳、気管支炎等にも広く用いられています。

成分としてはステロイド骨格を持つプレグナン配糖体、また、P-クマール酸、カフェー酸、フェルラ酸等のフェノール酸類、クエルセチン、ケンフェロール配糖体、ルテオリン、ルチン等フラボノイド類が単離され、さらに多くの精油成分が同定されており、現在も盛んに論文発表がなされています。

本画はレグンドレによる1856年の作です。